

程度は様々であった。

(2) 胸部X線上、両側肺にびまん性陰影を呈したものは6症例であった。うち3例(サルコイドーシス、粟粒結核、アレルギー性肺臓炎の各1例)については⁶⁷Gaシンチで経過を観察したところ、胸部X線像の改善とともに⁶⁷Gaの集積の低下をみた。他の3例は、特発性肺線維症2例、肺炎1例であった。

12. 縦隔腫瘍における⁶⁷Ga, ²⁰¹Tlシンチグラフィの評価

吉村 広 田口 正人 島袋 国定
城野 和雄 坂田 博道 小山 隆夫
中條 政敬 篠原 慎治 (鹿大・放)

組織診の得られた縦隔腫瘍62例(悪性リンパ腫13例・悪性胸腺腫12例・良性胸腺腫9例・良性奇形腫9例・その他19例)に⁶⁷Gaシンチを施行し、腫瘍描出能を検討し、うち、同時期に²⁰¹Tlシンチを併用した22例について、両核種の腫瘍描出能の対比検討を行った。

【結果】⁶⁷Gaは悪性病変の86%(24/28)、良性病変の12%(4/34)に集積し、集積の有無による良・悪性の正診率は87%(54/62)であった。胸腺腫(18例)の腫瘍径と⁶⁷Gaの集積の有無をみると、前後径が大きいほど集積する傾向があった。一方、²⁰¹Tlは悪性病変の100%(10/10)、良性病変の33%(4/12)に集積し、集積の有無による正診率は82%(18/22)で⁶⁷Ga(19/22)と差はなかった。両核種の集積度を+、+、-の三段階に分けると、+はいずれも悪性病変にのみみられた。²⁰¹Tlのsensitivityは100%(10/10)、⁶⁷Gaのspecificityは92%(11/12)で、両核種は縦隔腫瘍の良・悪性の鑑別に有用であると思われた。

座長のまとめ(10~12)

星 博昭 (宮崎医大・放)

演題10はサルコイドーシスを対象として、ガリウムシンチグラフィの有用性について検討したものである。シンチでは全身の検索ができることが有利であるが、ステロイド治療による変化の追求には血中ACEの測定が有用であると報告した。演題11はガリウムの肺へのび

まん性集積を示した症例について検討したものである。びまん性肺集積は約1.8%にみられ、多くは悪性腫瘍の化学療法後にみられた。数週間後に胸部X-Pにて異常の出現するものもあるが、大部分は特に問題なく経過していた。演題12は縦隔腫瘍に対するガリウムおよびタリウムシンチグラフィの有用性を検討したものである。縦隔腫瘍の良悪の判定にガリウムが有効であると報告されたが、タリウムシンチグラフィについてはさらに検討が必要であろうと考えられた。

13. 心拍同期心プール像における心筋収縮異常と刺激伝導障害の位相解析

伊東 昌子 藤本 進 林 邦昭
本保善一郎 (長大・放)

正常および各種心疾患55例を対象に、心拍同期心プール像の位相解析を行い、脚ブロックにおける心室間の収縮遅延・心筋梗塞における心筋壁運動異常を検出し、客観的な把握に有用であった。ことに、WPW症候群ではearly depolarizationという現象を客観的・視覚的に把握でき、従来心電図のみから把えられていた刺激伝導異常が、位相解析にて定量的に評価できることが示唆された。

また、各種心疾患のphase delayの平均値・標準偏差、さらにnormokinesis, hypokinesis, dyskinesisを示した局所心筋壁のphaseの平均値・標準偏差を算出し検討した。

14. うっ血型心筋症における核医学検査の有用性

平田 展章 仲山 親 中田 肇
(産医大・放)
花岡 陽一 中島 康秀 (同・二内)

うっ血型心筋症は原因不明の心筋疾患でありその基本的病態は左心腔の拡大および収縮性の低下である。今回われわれは心カテーテル検査あるいは臨床的に本症と診断された6症例に核医学検査を行い、その有用性を検討した。心筋シンチでは左心腔の拡大、部分的な左室壁の欠損および右室壁の描出を示す例がみられたが、心プールシンチでは、E.F.の著明な低下、心筋梗塞でみられる局所的